

## 56 Introduction to Nonverbal Communication

Nonverbal communication is the study of how people communicate without using words. It includes such aspects of communication as eye contact and gaze, touch, personal space, territoriality, and paralinguistics (the sound of the voice, including pitch and rate of speech). In this presentation, I will start with a warm-up activity, ask students to generate examples of non-verbal communication, and then discuss various aspects of nonverbal communication.

講 師

北尾 キャスリーン 教授

専 門 分 野

Communication Theory,  
English Language  
Teaching, Linguistic  
Pragmatics

現在の研究テーマ

Communication Theory, English Language Teaching,  
Linguistic Pragmatics

担当科目

Studies in English, Writing Skills

出講可能日

木・土曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン、パソコン

## 57 シェイクスピア入門

400年前のイギリスで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの作品は、今日、舞台上で上演されるだけでなく、映画やアニメにもなり、世界中で人気を博しています。講義では、劇作家の生涯や当時の演劇状況、作品の特色について紹介し、シェイクスピア劇の魅力を探っていきたいと思います。

講 師

辻 英子 准教授

専 門 分 野

エリザベス朝演劇

現在の研究テーマ

シェイクスピアの作劇法

担当科目

Shakespeare Production, Writing Skills

出講可能日

月・木曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン

## 58 Intercultural Communication

The aim of this lecture is to: 1) provide students with an introduction about what intercultural communication is and why this type of communication skill is so important for them in today's world. 2) introduce ways to learn about intercultural understanding and communication skills through pair work and group discussion.

講 師

崎 ミチ・アン 准教授

専 門 分 野

社会言語学、  
異文化コミュニケーション

現在の研究テーマ

異文化コミュニケーション・異文化理解

担当科目

CALL English, 社会言語学

出講可能日

木曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン、  
移動ができる机と椅子

## 59 「物語」は単なる「フィクション=作り物」なのか:「物語」を読むことの面白さと重要性について

昨今メディア・リテラシーの重要性が叫ばれています。しかし、「物語」のリテラシーについてはどうでしょう? 時に「物語」は「フィクション=作り物」として低く見られがちですが、実は「物語」こそ人間生活の基盤であり、私たちの過去、現在、未来が詰まっています。私の専門であるエドガー・アラン・ポーの文学作品などを扱いながら、「物語」を読むことの面白さと重要性についてお話ししたいと思います。

講 師

福島 祥一郎 助教

専 門 分 野

19世紀アメリカ文学

現在の研究テーマ

エドガー・アラン・ポーの文学と視ること、および近代都市社会との関係について

担当科目

外国文学と女性B、Writing Skills

出講可能日

月・土曜日

講義に必要な機材

プロジェクター、スクリーン、音響装置があれば助かります。ない場合には簡易的なものを持参。

## 60 マーク・トウェインが描く二つの冒険

マーク・トウェインの代表作、『トム・ソーヤの冒険』と『ハックルベリー・フィンの冒険』を取り上げ、トムとハックの冒険の基本的相違と、トウェインが求めた究極の自由について考察する。

講 師

松村 延昭 特任教授

専 門 分 野

アメリカ文学

現在の研究テーマ

アメリカ南部社会が生み出した文化

担当科目

アメリカ文化入門、Junior Seminar

出講可能日

月、火曜日

講義に必要な機材

スクリーン